

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2001-515859 (P2001-515859A)

【公表日】平成 13 年 9 月 25 日 (2001.9.25)

【出願番号】特願 2000-510435 (P2000-510435)

【国際特許分類】

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/197 (2006.01)

A 6 1 K 31/22 (2006.01)

A 6 1 P 29/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 31/197

A 6 1 K 31/22

A 6 1 P 29/02

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

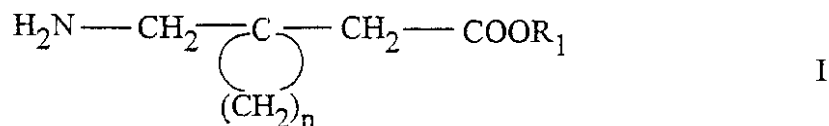
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも 1 種の疼痛軽減特性を有する抗癲癇化合物の有効量ならびに NMDA 受容体拮抗剤、NSAID および鎮痛剤よりなる群から選択される少なくとも 1 種の化合物の有効量の組み合わせ物。

【請求項 2】 抗癲癇化合物が、下記式 I :

【化 1】

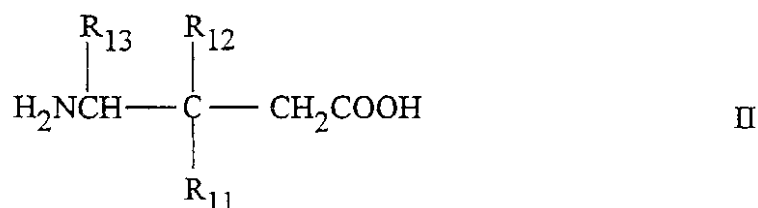


[式中 R₁ は水素または低級アルキルであり、n は 4 ~ 6 の整数であり、そして環は場合により置換されている] の化合物および製薬上許容しうるその塩である請求項 1 記載の組み合わせ物。

【請求項 3】 抗癲癇化合物がガバペンチンである請求項 1 記載の組み合わせ物。

【請求項 4】 抗癲癇化合物が下記式 II :

【化 2】



[式中 R₁₁ は炭素原子 1 ~ 6 個の直鎖または分枝鎖のアルキル、フェニルまたは炭素原子 3 ~ 6 個のシクロアルキルであり ; R₁₂ は水素またはメチルであり ; そして、R₁₃ は水素、メチルまたはカルボキシルである] の化合物、またはその個々のジアステレオマーもし

くはエナンチオマー異性体または製薬上許容しうるその塩である請求項 1 記載の組み合わせ物。

【請求項 5】 抗癲癇化合物がプレガバリンである請求項 1 記載の組み合わせ物。

【請求項 6】 少なくとも 1 種の疼痛軽減特性を有する抗癲癇化合物の有効量および NMDA 受容体拮抗剤の有効量の組み合わせ物。

【請求項 7】 抗癲癇化合物がガバペンチンである請求項 6 記載の組み合わせ物。

【請求項 8】 抗癲癇化合物がプレガバリンである請求項 6 記載の組み合わせ物。

【請求項 9】 少なくとも 1 種の疼痛軽減特性を有する抗癲癇化合物の有効量および NSAID の有効量の組み合わせ物。

【請求項 10】 抗癲癇化合物がガバペンチンである請求項 9 記載の組み合わせ物。

【請求項 11】 抗癲癇化合物がプレガバリンである請求項 9 記載の組み合わせ物。

【請求項 12】 抗癲癇化合物がガバペンチンであり、NSAID がナプロキセンである請求項 9 記載の組み合わせ物。

【請求項 13】 少なくとも 1 種の疼痛軽減特性を有する抗癲癇化合物の有効量および麻薬性鎮痛剤の有効量の組み合わせ物、ただしモルヒネを麻薬性鎮痛剤として含まない組み合わせ物。

【請求項 14】 抗癲癇化合物がガバペンチンである請求項 13 記載の組み合わせ物。

【請求項 15】 抗癲癇化合物がプレガバリンである請求項 13 記載の組み合わせ物。